繊維学会の明日を照らす

Promising Future of the Society of Fiber Science, Japan

川 口 春 馬

新年あけましておめでとうございます。新しい年に希望を託し、明るい題名をつけて、私の思いを述べさせていただきます。

半年前会長に任命されてまもなく、繊維学会のホームページに、学会を山に例えた所感を述べました。山の高さを「学」「研究」の水準の高さに見立て、裾の広がりや会員とのコミュニケーション・産との連携など「社会とのかかわり」の広さに見立てました。この山の峰は際限なく高くでき裾野は際限なく豊かにできるであろうと述べました。それはもちろん、学会が繊維学を磨きあげ麓にその果実を届け、社会がそれを有効に活かすというパターンが構築できている話です。

学会が繊維学を磨き上げるために、まずそれを志す者に強烈なインセンティブを持っていたかなければいけません。そのための一助とすべく、学会は、《アカデミックロードマップ》を作成することにしています。《学》にロードマップは似つかわしくないというご意見は拝聴に価すると思いますが、指標を示すことの意義は否定できません。経済産業省において並行して検討される《繊維技術ロードマップ》と合わせて、指標を見定めて研究を進め、さまざまな形で成果を世に出していけるようシステムを整えたいと思います。実践するのは繊維研究を担う《個》と《群》の研究者です。ここで群とは、繊維研究の拠点と目される幾多の研究機関を指し、「繊維学部」の看板がますます輝く信州大学を始めとする諸大学、および国や地方の研究所が挙げられます。注目されるひとつに、2006年4月に設立された京都工芸繊維大学の「繊維科学センター」があります。この新しい研究組織に、私は日本の繊維学におけるシンボリックな役割を期待しています。個と群の研究者によって生みだされる成果をもって、国際学会をリードし、それが次世代の研究者に新たなモチベーションを与える、という良い循環を作り出せたらと思います。国際化につい

ては、アジア圏にとどまらず一層グローバルな展開を図っていく方向で動きつつあります。

もちろん《学》の地道な底上げのためには、論文誌のレベルアップ、年次大会や秋季研究発表会の充実を図ることを心がけなければなりません。もうひとつ大事なことは、研究委員会の活性化です。研究委員会は「学会の顔」と位置づけています。各研究委員会がそれにふさわしい活動を展開できるよう、学会は強く働きかけていく所存です。

学会は、かつてないほど《公益性》を求められています。単に粛々と学術と科学技術の振興に貢献するという以上に、積極的に社会にコミットしていく姿勢を求められています。これからの学会は、会員へのサービスは当然として、一般社会からも見えやすい活動をしていくことに意を注がなければなりません。現在、学会では、会員とのパイプを広げる手立てを検討し、着実に実行に移しております。これを社会全体に波及させていく努力が必要かと思います。もとより、繊維学会は、あまたある学会の中でも社会とのかかわりが特段に強い学会といえましょう。2006年繊維学会年次大会特別講演での帝人の長島徹社長のお言葉のように、世界の人口が増え続ける中、衣類が非繊維化しない限り、繊維の需要は増え続けます。これは繊維の将来における量の保証です。繊維の新しい機能開発・用途開発が続くことから、繊維の将来における質の保証が得られます。量と質の保証をベースに、繊維学会は成長すべき宿命を持ちます。学会は、《繊維》の明日に責任をもつべき公益機関として、関連する産および官と手を携えてその使命・責務を果たさなければなりません。そうした中で、繊維学会の会員の皆様には、誇りを持って《繊維》を通しての社会貢献を実践していただきたいと思います。

繊維学会では、現在《繊維学会の中・長期計画》を検討しています。5年先、10年先をにらんだ計画です。この中・長期計画がまとまりましたら、一層クリアに繊維学会の明日を照らしてお見せできることと思います。ご期待下さい。そして、ご協力ください。

HARUMA KAWAGUCHI

慶應義塾大学理工学部 教授 工学博士

〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1

Tel: 045-566-5095 Fax: 045-564-5095

E-mail: haruma@aplc.keio.ac.jp

〈専門〉高分子科学

〈趣味〉旅